

## 言語能力を統合して解決する問題②（第5学年）

報告者 矢川亮太

### 1 第5学年における問題出題の意図

- 問題1は、工事中の道路標識が黄色で表されている理由を答える問題である。形がもつイメージや特ちょうを表にまとめた資料1と色がもつ効果や特性を表にまとめた資料2が提示されており、必要な情報を選んで、自分の言葉で表現する力が求められる。【他者とのコミュニケーションの側面】
- 問題2は、5つの選択肢からピクトグラムであるものを選ぶ問題である。馴染みのあるアプリケーションのアイコンなども選択肢に含まれている。AとBの2人の子供の会話をもとに、「絵がシンプル」「言葉がなくても分かりやすい」「意味が伝わりやすいように色や形もよく考えられている」といったピクトグラムの特徴を読み取り、正確に判断する力が求められる。【読解力】
- 問題3は、マスク着用を呼びかけるピクトグラムの案として、どんな形でイラストを囲み、どんな色で表すかを答える問題である。2つの資料をもとに、題意に合った形と色を判断し、その根拠を自分の言葉で表現する力が求められる。【他者とのコミュニケーションの側面】
- 問題4は、「白色」にはどんなイメージがあるかを考えて記述する問題である。資料2に示されている4色の効果や特性や、身近なものや自分の経験などを関連付けて、自分なりの答えを導く必要がある。明確な根拠をもとに、生み出した考えを主張する力が求められる。【創造的思考力】

### 2 調査の結果及び考察

表1 R4年度（6月→11月）とR3年度（6月→2月）における各問題の正答率（％）

年度\問題		1	2	3	4
R4	○	69.1→84.8△	79.8→87.9	51.1→74.7▲	21.3→28.3
	△			29.8→20.2	77.7→70.7
	×	30.9→15.2▽	20.2→12.1	19.1→5.1▽	1.1→1.0
	無	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0
R3 (昨年度 5年生)	○	89.1→96.0	90.1→87.1	37.6→50.5△	16.8→6.9
	△			37.6→40.6	83.2→92.1
	×	10.9→4.0	9.9→12.9	24.8→8.9▽	0.0→1.0
	無	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0	0.0→0.0

※6月より10%以上差異がある値は△（増加）か▽（減少）、20%以上なら▲（増加）か▼（減少）

- 10%以上上昇しているのは、問題1と問題3である。2つの問題に共通するのは、資料をもとに自分の考えを表現するといった点であり、資料を使って思いや考えを論理的に伝える力の高まりがうかがえる。【他者とのコミュニケーションの側面】
- 正答率が低かった問題4について、根拠となる記述がなかった解答が誤答として多く見られた。しかし、7%上昇していることから、資料や自身の経験を根拠として論を述べる力がやや高まっていると言える。【創造的思考力】
- 全体的な誤答の傾向として、題意を捉えていない解答が多い。問題2の正答率が高い水準から更に8%近く上昇していることから、一定の読解力を有しながらも、問われていることを正確に把握し、問題にあった答えを導くことに課題があることが分かる。【読解力】
- 無回答は6月、11月ともにどの問題も0であった。何とか答えを記述しようという姿勢が見られる。

### 3 特に伸びのみられた児童のインタビュー結果と考察

A児 0%→75% B児 0%→75% C児 0%→50%

上記児童に対して検査後にインタビューを行った際、以下のような発言があった。

- 鯨っ子学習で、相手に写真や表を見せながら説明することに慣れた。
  - どうすれば伝わるか、相手のことを考えながらまとめる力が身に付いた。
  - 一つのことを深く調べることで、いろいろなところ（視点）から見ることができるようになった。
- これらの発言から、相手に分かりやすく説明するために、資料を活用したり相手の立場を想像したりすることや物事を多面的に捉えることにおいて、鯨っ子学習が有効に作用したことがうかがえる。